第三百六十五回　青葉会

平成二十八年八月二十五日（木）　午后五時半～九時　丸紅来客食堂コンチェルト（談話室）

〈顧問〉☆川合万里子　先生
〈選者〉◎川口孤舟
〈出席者〉伊賀山そらお　今井紀久男　大林猛　川口孤舟　後藤保明　小西弘子　豊田ゆたか
星田啓子　宮内規雄（投句のみ）
〈投句〉柿﨑忠彦　小早健介　朱牟田恵洲　土谷堂哉　中野一灯　古田昇　山崎亜也　山内天牛
渡邊盛雄
〈紙上選句〉赤田堅　安部眞希子　楠田彦十　久米五郎太　庄司龍平　高橋敏郎　早川允章　福島正明
村田くに子　山本三恵

《互選句》

七点
☆◎今朝秋の風聞き分くる馬の耳　一灯（そ・万・孤・彦・五・啓・三）
さりげなく安否たずねし残暑かな　盛雄（堅・紀・彦・五・弘・龍・く）
六点
☆黒揚羽ホースの水をくぐり抜け　そらお（眞・万・保・ゆ・允・正）
（正…下五→「飛び縄に」では？）
☆語り部の母の絶筆原爆忌　ゆたか（眞・そ・万・彦・弘・允）
☆かみしめる戦なき日々終戦日　仝（堅・万・敏・允・啓・く）
五点
☆極上のジャズ・冷酒（ひや）に酔ひ家遠し　紀久男（そ・猛・万・正・啓）
（☆…中七→「ジャズに冷酒（ひやざけ）」）
☆炎天の道路に猫も忍び足　啓子（眞・猛・万・彦・保）
（☆→「炎昼の舗装路猫も忍び足」）
四点
☆水槽に布目たしかな新豆腐　孤舟（万・五・ゆ・三）
☆広島忌黙祷画面の市民らと　恵洲（眞・万・彦・敏）
（☆→「黙祷や画面の市民と広島忌」）
☆西瓜割り白寿に集ふ孫曽孫　堂哉（そ・万・ゆ・く）
☆稲妻が転げる縁側山の宿　啓子（眞・猛・万・弘）
（☆→「稲妻の転（まろ）ぶ縁側山の宿」）
☆◎連れ添うて三十三年遠花火　規雄（万・孤・保・弘）
☆退院の日や凌霄の花盛り　仝（眞・万・允・く）
（☆→「凌霄の花盛りなり退院日」）
三点
☆洒落のめす廓噺や夏芝居　紀久男（万・啓・く）
（鶴瓶の新作落語を歌舞伎に）
◎象徴への深き御心敗戦日　忠彦（堅・紀・孤）
☆瀧飛沫風の化身となりにけり　孤舟（猛・五・龍）
☆淋代（さびしろ）の初秋の渚虚貝（うつせがい）　仝（紀・ゆ・三）
☆岬鼻（さきばな）の砲台跡や雁渡し　仝（允・正・三）
☆受話器越しつくつくぼうし鳴いてをり　保明（万・彦・啓）
（☆→「受話器からつくつくぼふしの声こぼれ」）
☆今朝の秋タオルケットを掻き上げる　仝（紀・万・龍）
☆盆僧のアウディ忙しく去りにけり　堂哉（龍・允・啓）
☆◎デッキへと出て南溟の星月夜　昇（万・孤・弘）
☆夕立ちや日向の匂ひ残すまゝ　啓子（万・五・龍）
（☆…下五→「残るまま」）
☆打ち水や日向の匂ひ子等の声　仝（保・龍・ゆ）
☆仏にも休日ありや茄子の馬　盛雄（万・五・敏）
（☆→「休日か仏迎へる茄子の馬」）
二点
☆にわか雨しばし途絶えし蝉しぐれ　そらお（堅・保）

☆ よろけるも孫には負けぬ泳ぎかな　紀久男（猛・万）

☆ 盆僧の妻は碧眼愛想よく　仝（万・敏）

会話なき倅とほぐるる冷酒（ひや）の酔　仝（そ・猛）

零戦の散りし世にまた夏の雲　忠彦（堅・そ）

☆ 村へ入る橋へひまはり立ち並ぶ　弘子（紀・万）

（☆…「橋へ」→「橋に」、「並ぶ」→「並び」）

◎ 浜駆くるライフセーバー雲の峰　一灯（孤・三）

天高く金色映えて葱坊主　亜也（紀・敏）

（モスクワにて。クレムリンの建築群）

孫捕りし珍種カミキリ爺狂喜　天牛（弘・正）

☆ 朝顔の出来栄え誉めて通り越す　盛雄（万・正）

（☆→「朝顔の出来栄えを褒め通り越し」）

☆ みんみんの声の導く蝉しぐれ　そらお（万）

（☆→「蝉時雨みんみんの声に導かれ」）

卓上に白百合かざり読書かな　仝（正）

◎ 炎昼や町に轟くドリル音　仝（孤）

ところてん讃岐八十場（やそば）の清水育ち　猛（紀）

ネクタイを外し初秋の風を享け　孤舟（く）

☆ 大文字燃える夜空へ手を合わせ　保明（万）

竿灯の選に漏れたか子ら涙　仝（三）

八月なり陛下のお言葉せつせつと　弘子（堅）

恥じらいか月は裏側なぜ見せぬ　健介（孤）

◎ ふつふつと元気を得たり夏五輪　ゆたか（敏）

パンツ干す竿や朝顔からみ咲き　仝（保）

赤道を越えてたゆたふ天の川　昇（孤）

◎ 子等遊ぶたらいの中の日向水　啓子（万）

☆ ほのかなるウオトカの苦味秋立てり　亜也（ゆ）

つぎつぎと白玉五つ汁粉食ふ　天牛（万）

●次回青葉会

九月二十一日（木）　午后六時から八時半　文京区民センター3のB室

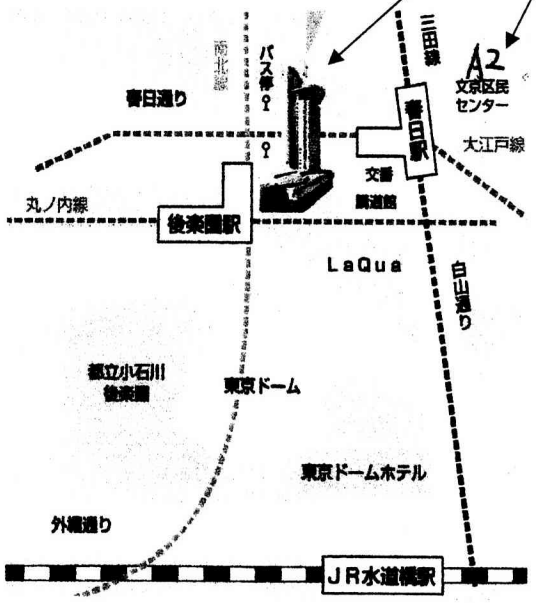
▲当季雑詠五句　投句二句

十月二十七日（木）　午后六時から八時半　文京シビックセンター5階D会議室

※会議室では飲酒は出来ませんのでご了解下さい。

○文京区民センター　文京区本郷四1十五1十四

○文京シビックセンター　文京区春日一1十六1二十一



以上文責　紀久男

平成二十八年八月句会報

一　建替前の丸紅ビルでの最後の句会に数年ぶりの規雄さんが現れ、出席9名。投句も9名。孤舟さん持参の「俳句界」9月号（特集「さらば『萬緑』…万里子先生の作品も）、「爽樹」9月号（5周年祝賀会での川口代表挨拶文や来賓のスナップ等）、弘子さんからの文京区観光案内パンフ、シビックセンターパンフ、句会場地図等を回覧し乍ら、弘子さん寄贈のチョコナッツ、啓子さんの「霧島」、孤舟さんの「雪中梅」、小生の純吟「越乃寒梅へ灑（さい）〉」（「一韋」の熊谷國男さんより）、「八海山へ雪室〉三年貯蔵」を賞味しつつ開始。御覧のように一灯さん、盛雄さん、ゆたかさん、そらおさんが好成績でした。

話題は（一）リオオリンピック（水泳、男子体操、４００Ｍリレー等）（二）社友会ビアパーティ（社長挨拶、正明さんが元気そうにしておられたこと等）（三）サラリーマン川柳（弘子さんが「俳句好き遺言状も五七五）を気に入ったこと等）等々。帝国ホテル側からシェフのサービス（鶏肉の揚げたもの）やスタッフの皆様からお別れの挨拶（天野嬢から欠席された天牛さんへ（ＴＥＬ）もあり盛会でした。

句会終了してから（一）先生からの選評一筆箋（二）正明さんからの選句ハガキ（三）恵洲さん、亜也さんら投句者からの手紙・ＦＡＸ等（四）天牛さんのお孫さん作・演出の「歌舞伎女子大学」チラシ（五）7月12日亡くなった大橋巨泉の俳句（7月21日東京新聞のコラム掲載）を回覧して解散しました。（「浴衣着ていくさの記憶うするるか」早大俳句研究会時代の句）

二　関係者近詠

秘苑花下最後の王妃のさきくませ　万里子
萬緑を描きつつ色の数ふゆる　〃
火酒そそぎ罅ぜる氷や草田男忌　〃
年惜しみ父の聖書の文語誦む　〃
安息日籠の小鳥へ小鳥来て　〃
初つばめ紐きりきりと畝作り　福嶋延子
母のもの洗ひに通ふ初桜　〃
泉湧くほとりや切に羽づくろふ　〃
灯の消えてより大いなる十夜寺　〃
黒牛は黒を深めて牧閉す　〃

福嶋延子（丸紅俳句部ＯＢ）（萬緑幹部）

―「俳句界」―　9月号

鰡飛びて時化の気配やボスフォラス　正明
柘榴割れ本音露（あらは）る国境　〃
大西日捕虜が行進せし通（とおり）　〃
秋の旅答えを出さぬスフィンクス　〃
鬼おこぜ己も傷つく正義漢　〃
麻痺のある世界実像熱帯夜　〃

―「稲毛句会」8月

海老蔵夫人麻央さんの快癒祈願　紀久男
夏襟の成田屋贔屓祈りをり

（☆→「成田屋を贔屓の夏襟深祈り」）

三　「俳句界」8月号掲載　高橋睦郎５０句より小生好み５句紹介します。

悼　蜷川幸雄

荒使ひせし目や聲や青奈落

福島

梅雨深し除染汚染を繰返し

平成二十八年九月八日

蜜豆もありて学食華げる　恵洲

―「ＮＨＫラジオ」6月放送　西村和子選

蝉時雨とふ閑けさの極みかな　允章
待ち兼ねし京の便りの鱧料理　〃
図書館を出ればざんざん蝉時雨　〃
小便無用の鳥居褪せゐて西日中　恵洲
舌で喘ぐ犬を真似たき暑さかな　〃
麦茶勧む宅配便の青年に　〃
のど仏ありげな女史の大ジョッキ　〃

―「大鉄会」8月

すめらぎのお気持確と初嵐　盛雄
金ならぬ銅の尊さ涼新た　健介
曽遊の曾根崎訪ふや初嵐　紀久男

―「きさらぎ句会」8月

この磯もあの洞うも哭け沖縄忌
妖しさや水照りののぼる藤の房
活字てふ文化滅びん夜の秋

秋暑し油の浮かぶ運河かな　允章
山暮れて幽かな蕎麦の花明り　〃
新涼や求めしペンの書き心地　〃
岡半で土用のすき焼つつきけり　天牛
内村は神だと言ける夏五輪　〃

紀久男記